

令和 4 年 6 月 10 日現在

機関番号：13802

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K11067

研究課題名(和文) 継続的な子育て支援を実現する対話と対話的子育て支援ガイドの考案

研究課題名(英文) Dialogue for achieving continuous child-rearing support and creation of a guide for dialogical child-rearing support

研究代表者

山本 真実 (Yamamoto, Mami)

浜松医科大学・医学部・准教授

研究者番号：90710335

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、子育て支援における親・家族と保健師の対話に注目し、継続的な子育て支援を実現するための「対話的子育て支援のための心構えガイド」を考案した。保健師へのインタビューを行い、データを質的帰納的に分析した。継続的な支援において保健師が心がける対話の姿勢を明らかにし、「対話的子育て支援のための心構えガイド」とした。保健師によるガイドを意識した実践と、実践後のインタビューにより、このガイドが対話を続ける拠り所となること、対話の姿勢への新しい理解を見出す足がかりとなることが明らかとなった。また子育て支援を“子育ての物語を共創していくこと”と考える“対話的子育て支援”という支援のあり方を提示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義として、子育て支援を「対話」という視点で見つめ直すことで、子育て支援とは、親・家族と保健師が一緒に創るものであるとし、“子育ての物語を共創すること”を重視した“対話的子育て支援”という支援のあり方を提案したことが挙げられる。社会的意義として、継続的な子育て支援における親・家族との対話における保健師の姿勢を示し、対話の姿勢について理解を広げるための足がかりにもなる「対話的子育て支援のための心構えガイド」を考案したことが挙げられる。これにより、これまで言及されていなかった子育て支援における親・家族と保健師との対話について明示し、継続的な子育て支援の実現に寄与した。

研究成果の概要(英文)：This study focused on the dialogue between public health nurses and parents/family regarding child-rearing support and established a mental readiness guide to achieve continuous child-rearing support. Public health nurses were interviewed, and the data were analyzed using a qualitative inductive approach. The attitude toward dialogue that public health nurses consider within the continuous support was identified, and a “Mental readiness guide for dialogical child-rearing support” was created. Through actual practice by the public health nurses, keeping the guide in mind, and post-practice interviews, the guide was found to be a foundational reference for continuing the dialogue and provided a foothold for discovering a new way to understand the attitude towards the dialogue. Moreover, how support should be for “dialogical child-rearing support” that considers child-rearing support as “co-creating a story of child-rearing” was also presented.

研究分野：地域看護学

キーワード：子育て支援 対話 多声的 子育て世代包括支援センター 継続支援 児童虐待予防

1. 研究開始当初の背景

子育て支援における課題として、育てにくさを感じる親への支援の充実、子育て不安の軽減や児童虐待予防、貧困や健康格差への対応などが注目されている。これらの課題では、問題が深刻化する前からの予防的介入が重要とされ、また問題の本質が複雑であることから、妊娠期からの継続的な支援が必要不可欠となる。継続的な子育て支援のためのワンストップ拠点となる子育て世代包括支援センターの設置が進められ、継続的で切れ目ない支援を提供するためのシステムの構築や多職種連携の方法は多数検討されてきた。システム構築や多職種連携に加え、継続的な支援では、親・家族と専門家との関係性、つまり親・家族と専門家の対話のあり方も重要となる。子育て世代包括支援センターと類似点をもつフィンランドのネウボラにおいては、対話が主たる支援のひとつであり(高橋, 2015)、住民はネウボラ保健師との対話を求めてネウボラを訪れる(Kokko, 2018)とされている。継続的な子育て支援において「対話」は重要であるが、「対話」について検討した文献は少なく、諸外国の取り組みを紹介したものが散見されるのみであり、日本の子育て支援活動における対話を検討した報告は見当たらなかった。また児童虐待予防の観点ではハイリスクアプローチだけではなく、ポピュレーションアプローチの充実も重要となるが、ポピュレーションアプローチを意識した対話のあり方は示されておらず、実践における対話のあり方は個々の専門家の技術に委ねられている。

日本における母子保健活動や子育て支援活動に焦点を当て、継続的な子育て支援における親・家族と専門家との対話のあり方や、対話における専門家のスタンスを明示することは、日本の子育て支援活動を基盤とした継続支援の実現と、それによる子育て支援の課題解決や予防的支援の充実に寄与する。

2. 研究の目的

本研究の目的は、対話的な子育て支援における専門家のスタンスや役割を明らかにすること、母子保健活動や子育て支援での親・家族との対話において保健師が考えるスタンスや役割、葛藤、継続的な支援のために大切にしていることや工夫を明らかにすること、実践現場との協働により「対話的な子育て支援のための心構えガイド」を考案すること、である。

3. 研究の方法

1) 研究デザイン

本研究は、G. Bateson (1972)の円環的相互作用の認識論、そして“現実とは、人と人が関係し合い社会的につくられるもの”とする社会構成主義(Hoffman, 1992)、語りであり語られた物語、語られる関係性に注目するナラティブ(McNamee & Gergen, 1992; 野口, 2002)に依拠した。

2) 研究方法

(1) 目的 : 対話的な子育て支援における専門家のスタンスや役割を明らかにする

国内文献・国外文献のレビューを行い、子育て支援における対話での専門家と住民の関係性や対話における専門家のスタンスを整理して明らかにした。国内文献・国外文献レビューの方法は、それぞれ以下の通りである。

国内文献については、医学中央雑誌、CiNii を用い、“ネウボラ”“子育て支援包括支援センター”をキーワードとして文献を検索した。国外文献では、PubMed を用い、“community

health nurse” “public health nurse” “communication” “dialogue” “relationship” をキーワードとし、英語文献を検索した。抽出された文献から、会議録、対話に関連のないもの、子育てに関連がないもの、体制づくりや保健師の満足感に関するもの、そして、重複する文献を除いた。そこから、支援者と親との関係性や対話について記載されていた文献を抽出した。分析は、国内文献・国外文献それぞれで実施し、抽出した対象文献について、支援者と親の関係性や、対話における専門家のスタンスに関する報告内容を意味内容により整理した。

(2) 目的 : 母子保健活動や子育て支援での親・家族との対話において保健師が考えるスタンスや役割, 葛藤, 継続的な支援のために大切にしていることや工夫を明らかにする

市町村保健師へのインタビューを行い、継続的な子育て支援のための親あるいは家族との対話において、保健師が心がける対話の姿勢を明らかにした。

研究参加者は、母子保健や子育て支援に従事する保健師とした。データは、半構成的インタビューにより収集し、継続的な子育て支援での親・家族との対話において、心掛けることやスタンス、役割、葛藤、工夫について尋ねた。インタビューは IC レコーダーに録音し、逐語録を作成した。データは、保健師が心がける姿勢と、姿勢に基づく対話の技について質的帰納的に分析し、文脈や意味のまとめにより【カテゴリー】を生成した。分析の厳密性のため研究参加者からメンバーチェックを受けた。所属機関臨床研究倫理委員会の承認を得て実施した。

(3) 目的 : 実践現場との協働により「対話的子育て支援のための心構えガイド」を考案する

上記(2)により明らかとなった継続的子育て支援における対話での保健師の心構え・スタンスから「対話的子育て支援のための心構えガイド」を作成し、保健師による心構えガイドの実践での活用と、実践後のインタビューを行った。研究参加者である保健師のうち、承諾の得られた者に心構えガイドを意識した実践を依頼し、保健師に実践後のインタビューを行った。データは、半構成的インタビューにより収集した。インタビューでは、心構えガイドの用いやすさ、親や家族との関係性の変化、対話や子育て支援への保健師の考え方の変化などについて尋ねた。インタビューは IC レコーダーに録音し、逐語録を作成した。データは、質的帰納的に分析し、文脈や意味のまとめにより【カテゴリー】を生成した。所属機関臨床研究倫理委員会の承認を得て実施した。以上により、実践における用い方、効果、充実や検討が必要な視点への示唆を得た。

4 . 研究成果

1) 目的 : 対話的な子育て支援における専門家のスタンスや役割を明らかにする

国内文献レビュー (Yamamoto, Kadoma & Asano, 2020; 山本, 門間, 浅野, 2021a), 国際文献レビュー (Yamamoto, 2022) の結果、以下が明らかとなった。

国内文献レビューの対象文献には、 学術論文として報告された文献 (21 件), 事例紹介や保健活動を紹介した文献 (55 件) があつた。学術論文として報告された文献では、家族と専門家の対話において重要なこととして、親と専門家が互いに尊重し合うこと、対等な関係の重視、双方向性への敬意、顔の見える個と個の関係、相手が語りやすいようにする専門性、どのように子どもを育てたいのかという未来語りなどが報告されていた。また対話における専門家の姿勢として、子どもと家族の目線に立つこと、Feeling を聴き、Felling を伝えること、家族をより理解していく時間として健診を捉えること、が挙げら

れていた。事例紹介や保健活動を紹介した文献は 21 市区町村(1 政令指定都市を含む)、2 府県から活動が報告されていた。報告内容は、親・家族と支援者の関係づくりと、切れ目ない支援体制の構築に二分された。親・家族と支援者の関係づくりとしては、担当保健師との顔の見える関係づくり、親子関係への支援の充実、父親も含めた家族支援が報告されていた。切れ目ない支援体制の構築としては、産前・産後サポートの充実、学齢期までの情報の一元化、保健事業による継続性の維持、母子保健コーディネーターの育成、保健師間の情報と方針の共有、関係部署・関係機関との連携の強化、が報告されていた。

国外文献のレビューでは、抽出された対象文献(13件)のうち、複数(5件)がフィンランドにおける研究であった。対話における保健師の役割として、そばにいること、話を聴く、気持ちを落ち着かせる、相手の理解、アドバイス、励まし、自尊心の確認、話し合しやすい雰囲気提供、個別性の尊重、意思決定への支援、情報の提供・共有、専門的スキルの提供、家族支援、調整・仲介があった。対話における関係性として、信頼関係、協力的・対等なパートナーシップ、親しい・親密な関係、積極的に関与する関係、継続的な関係、自信を支える関係が報告されていた。

2) 目的 : 母子保健活動や子育て支援での親・家族との対話において保健師が考えるスタンスや役割、葛藤、継続的な支援のために大切にしていることや工夫を明らかにする

保健師へのインタビューの結果、以下が明らかとなった。

インタビューの参加者は、経験年数 6 年から 30 年で、母子保健や児童福祉に充実した経験がある市町村保健師 10 名であった。

継続的な子育て支援のための対話で保健師が心がける姿勢として【相手の物語を大切にする】【「あなたと私」という関係を目指す】【To be continued がつくる変化を信じる】【相手とのやりとりから自分自身を知る】【余白を認め、一緒に物語をつくり続ける覚悟を決める】【相手が物語をつくりながら自分で歩めるように育てる】【いくつかの考えを等価に並べ、自由な選択を保障する】が明らかとなった。保健師は、対話が民主的であるための姿勢を重視していた。また保健師自身が覚悟を持つことや相手を育てるといった保健師独自の姿勢があることも示唆された(山本, 門間, 浅野, 2021b)。

上記の姿勢に基づく保健師の技として、【聴くこと】、【話すこと】、【聴くこと-話すことを続ける】、【対話のバトンを周囲につなぐ】、【対話を続けるための支えを得る】、【対話が続くその先を描く】が明らかとなった(山本, 大島, 2022)。

本研究において保健師は、子育ての物語を親や家族と共創し、その物語を親・家族が自分の力で歩いていくことを目指して対話を続けていた。このことから、子育て支援は、親・家族と保健師と一緒に創るものであると考えることが可能であり、子育て支援を“子育ての物語を共創すること”と考える“対話的子育て支援”という支援のあり方が提案できると考えた。

3) 目的 : 実践現場との協働により「対話的子育て支援のための心構えガイド」を考案する

上記、目的により明らかになった対話における姿勢から「対話的子育て支援のための心構えガイド」を作成し、作成した心構えガイドを意識した実践を保健師に依頼し、実践後インタビューを行った。研究参加者である市町村保健師 10 名のうち 5 名が参加した。

実践後のインタビューでは、「対話的子育て支援のための心構えガイド」を意識する効果として、2 つが明らかとなった。1 つ目は、【不確かなままでのための拠り所を得る】で

あり，これは，共通言語や拠り所を得て安心した，親・家族の力（語る力や選ぶ力）を尊重できたなどで構成された。2 つ目は，【対話の姿勢に新しい意味を見つけて，多様な視点で理解する】であり，これは，提示された対話の姿勢に新しい言葉をつける，継続的な子育て支援や対話への新しい考え方を見つけるなどで構成された。

「対話的子育て支援のための心構えガイド」は，保健師が，対話において親・家族の力（語る力や選ぶ力）を信じ，結論を急がず不確かなままで対話を続けるときの拠り所となること，さらに保健師が対話の姿勢に新しい意味を見つけ，子育て支援や対話を多様な視点から理解していく足がかりとなることが明らかとなった（Yamamoto, Kadoma, Asano & Nomura, 2022）。

以上のプロセスを経て，子育て支援において，親・家族との対話を継続しやすくし，対話の姿勢そのものへの理解を広げる効果が期待できるガイドとして「対話的子育て支援のための心構えガイド」を考案した。

引用文献

- Bateson, G. (1972): Steps to an Ecology of Mind, The University of Chicago Press, Ltd, London.
- Hoffman, L. (1992). Constructing the theoretical context. In S. McNamee & K. J. Gergen (Eds.), *Therapy as social construction* (pp. 7-24). London, England: SAGE Publication.
- Markus Kokko(2018): 実体験から語るフィンランドのネウボラ ,保健師ジャーナル ,74(6) , 464-467 .
- McNamee, S. & Gergen, J. K. (1992): *Therapy as Social Construction*. SAGE, Los Angeles, London, New Delhi, Singapore, Washington DC.
- 野口裕二(2002)：物語としてのケア ナラティブ・アプローチの世界へ，医学書院，東京 .
- 高橋睦子(2015)：ネウボラ フィンランドの出産・子育て支援，かもがわ出版，京都 .
- Yamamoto, M., Kadoma, A., Asano, M. (2020): Suggesting Future Themes about Role of Conversation in Child Rearing Support in Japan by Literature Review, The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science.
- 山本真実，門間晶子，浅野みどり(2021a): ネウボラを参考とした国内での母子保健・子育て支援活動についての文献レビュー，第 23 回日本子ども健康科学学会学術大会 .
- 山本真実，門間晶子，浅野みどり(2021b): 継続的な子育て支援のための対話 - 保健師が心がける対話の姿勢 - ，日本看護科学学会第 41 回学術集会 .
- 山本真実，大島亜友美(2022)：継続的な子育て支援における保健師と親との対話 - 対話を続けていく保健師の技 - ，第 10 回日本公衆衛生看護学会学術集会 .
- Yamamoto, M. (2022): Dialogue between a public health nurse and parents rearing children: A literature review, 6th international Conference of Global Network of Public Health Nursing.
- Yamamoto, M., Kadoma, A., Asano, M., Nomura, N. (2022): Effects of “ The Scaffolding for Dialogical Childrearing Support ” : Changes in Dialogues with Parents and Family Members Reported by Public Health Nurses, The 7th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 山本真実, 浅野みどり, 野村直樹	4. 巻 43
2. 論文標題 療育教室に通う子どもの成長を時間のことばで語る 『等価な時間』というポリフォニー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本看護研究学会雑誌	6. 最初と最後の頁 733-744
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15065/jjsnr.20200228087	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 門間晶子, 中畑ひとみ, 加藤まり	4. 巻 27
2. 論文標題 行政保健師が子育て中の家族と対話的に関わるための工夫 - ある市町村におけるインタビュー調査 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 家族看護学研究	6. 最初と最後の頁 152-165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Chizuru Tsubonouchi, Yuriko Kinoshita, Naoki Nomura	4. 巻 39
2. 論文標題 The patient-authored medical record: A narrative path to a new tool in psychiatric nursing	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Archives of Psychiatric Nursing	6. 最初と最後の頁 152-165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.apnu.2022.03.009	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 0件/うち国際学会 5件）

1. 発表者名 Mami YAMAMOTO, Akiko KADOMA, Midori ASANO
2. 発表標題 Suggesting Future Themes about the Role of Conversation in Child Rearing Support in Japan by Literatures Review
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Akiko KADOMA , Mami YAMAMOTO , Midori ASNO
2. 発表標題 The Potential of Open Dialogue in Child Abuse Prevention in Japan : A Case Study of a Mother Who Lost Temporary Custody of Her Child
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 浅野みどり , 小野里衣 , 河村江里子
2. 発表標題 訪問看護に携わる看護師が事例検討で振り返りを望むケースの特徴
3. 学会等名 日本家族看護学会第27回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山本真実 , 門間晶子 , 浅野みどり
2. 発表標題 継続的な子育て支援のための対話 - 保健師が心がける対話の姿勢 -
3. 学会等名 日本看護科学学会第41回学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Akiko Kadoma, Mari Kato, Mami Yamamoto, Midori Asano
2. 発表標題 Possibilities and Challenges of Open Dialogue among Child Parenting Support: Dialogue with Foster Parents
3. 学会等名 日本看護科学学会第41回学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 門間晶子, 浅野みどり, 山本真実, 加藤まり, 中畑ひとみ, 冨塚美和, 細川陸也
2. 発表標題 看護における対話の可能性ーオープンダイアログの基礎と「聴く」「話す」の体験ー
3. 学会等名 日本看護研究学会第47回学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本真実, 門間晶子, 浅野みどり
2. 発表標題 ネウボラを参考とした国内での母子保健・子育て支援活動についての文献レビュー
3. 学会等名 第23回日本子ども健康科学学会学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本真実, 大島亜友美
2. 発表標題 継続的な子育て支援における保健師と親との対話 - 対話を続けていく保健師の技 -
3. 学会等名 第10回日本公衆衛生看護学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Mami Yamamoto
2. 発表標題 Dialogue between a public health nurse and parents rearing children: A literature review
3. 学会等名 6th international Conference of Global Network of Public Health Nursing (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Akiko Kadoma, Mari Kato, Mami Yamamoto, Midori Asano
2. 発表標題 How does Open Dialogue (OD) approach work for mothers of young children with parenting challenges?
3. 学会等名 The 7th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Mami Yamamoto, Akiko Kadoma, Midori Asano, Naoki Nomura
2. 発表標題 Effects of “The Scaffolding for Dialogical Childrearing Support ” : Changes in Dialogues with Parents and Family Members Reported by Public Health Nurses
3. 学会等名 The 7th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 野村直樹 (石原孝二, 斎藤環 編)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 200
3. 書名 ベイトソンを学ぶのは何のため? - 関係性言語という語学 (オープンダイアログ思想と哲学)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	門間 晶子 (Kadoma Akiko) (20224561)	名古屋市立大学・大学院看護学研究科・教授 (23903)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	浅野 みどり (Asano Midori) (30257604)	名古屋大学・医学系研究科(保健)・教授 (13901)	
研究分担者	野村 直樹 (Nomura Naoki) (80264745)	名古屋市立大学・大学院人間文化研究科・特任教授・名誉教授 (23903)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関